

ー 東北応援ツアーレポート ー
「現地を訪問して想うこと」

氏 名 : 古山良茂、 1972年度卒業、 文学部

1、震災学習列車（岩手県釜石市～大船渡市）

11月5日（土）、13:30予定どおり釜石駅に着く。

これより震災学習である。今回学習する震災学習列車（臨時・貸切）は、三陸鉄道（株）の南リアス線で、釜石駅～盛駅間（36.6km）を約70分かかって時速30kmの速度でゆっくりと進む。列車は誠実な男性の震災ガイドの説明に合わせて、停車や徐行をしてくれる。眼下に見下ろすリアス式海岸は今は絶景であるが、当時の悲惨な状況を想像させる。車中よりまた途中下車して黙祷する。地元の方が手を振ってくれるのに応える。

「津波てんでんこ」という言葉はこの震災で知ったが、地震発生後、津波が来るまでの緊迫したパニックの時間内に肉親を心配する心情は察するに余りある。それで亡くなった尊い命をどうして責められようか。ただ犠牲者の冥福を祈るとともに被災者の健康を祈るばかりである。

また、「津波の二度逃げ」という言葉もあるという。一度高い場所に逃げても、十分とは思わずさらにもう一段高い場所の逃れることが大事だと。そんなことを学習しながら関係者に大きな感謝の拍手をして下車した。

2、震災勉強会（宮城県気仙沼市）

同日16:30、気仙沼プラザホテルでの震災勉強会が始まる。

鈴木、金野、高橋、平野の4氏より貴重な体験談を聴く。2日前にも地震がありその時の津波が50cm程度であったとのこと。その油断が今回の大きな犠牲につながったとすれば、非常に残念である。

また、平野さんは当時立命大生でその年に大船渡市出身の友人に誘われ、ボランティアとして当地で活動するうちに魅力を感じて、遂には福岡の両親を説得して大船渡市役所に就職したとのことであった。本人のすてきな笑顔に感動した次第である

3、「タピック45」（国道45号線・道の駅「高田松原」：震災遺構）

11月6日（日）9:00、バスの車窓より「奇跡の一本松（レプリカ）」を遠望し、保存されている愛称「タピック45」を視察。またその前にある“追悼施設”で黙祷して犠牲者の冥福を祈る。

その後「復興まちづくり情報館」で、前夜の鈴木氏を迎え学習。震災前の美しい松林、多数の人でにぎわう「タピック45」を想像して何度も黙想する。

※ 私は今回で3度目の震災学習である。平成24年度は宮城県でまだ悲惨な爪痕が残っていた。平成25年度は福島県で原発事故による風評被害の実態に驚いた。

3度目は今回の岩手県で、高台移転の問題や進まぬ復興など、被災地の現状を自分の目に焼き付け、一日も早い全面復興を祈る大変有意義なツアーであった。

